

## 3-15. 八代よかところ宣伝隊（熊本県八代市）

### (1) アドバイザー派遣申請の背景

五家荘の山は2011年11月に日本山岳遺産として九州で初めて認定され、これからガイド、インストラクターの需要が高くなることが見込まれる。

認定以前にも多くの登山客が訪れ、ツアーが催行されたが、登山のルール作成、インストラクターの育成が間に合わず、植物に関しては、多くの盗掘にあう被害が起きている。また、猪やシカの被害も甚大で早急に保護等の対策が望まれる。

ガイド・インストラクターの育成も進んではきたがプログラム構成としては体験が主であり、日本山岳遺産に認定されたことでエコガイド、インストラクターの育成が急務である。

また、過疎化する地域内で近隣市町村との連携も必要不可欠であり、隣村である五木村観光協会との連携についても模索中である。



### (2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 25 年 1 月 18 日（金）～平成 25 年 1 月 19 日（土）
場 所	八代市泉町、球磨郡五木村
ア ド バ イ ザ ー	株式会社南信州観光公社 代表取締役社長 高橋 充 氏
参 加 者	五家荘地域振興会会員、五家荘地域振興会事務局、五木村観光協会、五木村役場ふるさと振興課、八代よかところ宣伝隊 計 13 名
スケジュール・方法	五木村 川辺川ダム視察、村内視察（椎原→樺木）、講演会、意見交換会



### (3) アドバイスの内容

---

#### ●農家民泊について

- ・ エコツアーのプログラムとして開拓中である田舎ふれあい宿泊体験（農家民泊）では、旅行エージェントへの販売につながっていないのが現状であるが、五木村と連携し受入宿泊所数の拡大、魅力の増加につなげていくことが必要かと思われる
- ・ 泉町・五木村での田舎ふれあい宿泊体験（農家民泊）の場合、新幹線駅から移動時間 2 時間という立地条件から、誘致が難しいのではないかとの意見に対し、2 時間かけても行きたいと思わせるようなプログラム作りをすることで、リピーターにつなげていく。
- ・ 1 泊は平地での田舎ふれあい宿泊体験、1 泊は泉町、五木村での田舎ふれあい宿泊体験と全く違う地域、環境での宿泊体験を通して学ぶことも貴重な体験である。

#### ●体験プログラムについて

- ・ 体験プログラム数は多く開発するが、リピーターがつくプログラムは一部である。しかし体験プログラムを多く持つことで地域の魅力発信になる。
- ・ 体験プログラムは地元の職人、女性をインストラクターとして起用することで、体験プログラムの価値を上げることができる。
- ・ 地域で当たり前にあるものが、地域外から来られた方には宝（観光資源）となることがある。体験プログラムを作る際に地域外と比較することで観光資源が見えてくる。

### (4) アドバイザー派遣の効果

---

#### ●参加者や関係者に与えた効果

- ・ エコツーリズムへの取組は地域住民の結束力を高め、また市町村の垣根を越えて活動できるものだと確信できた。「過疎化」「少子化」「高齢化」の進む山間地で住民が中心となり主体性をもってエコツーリズムに取り組むことで住民が地域を愛し、地域の宝を磨き、地域の魅力を発信、地域の案内へとつなげていく道筋がみえた。



#### ●今後の期待される効果

- ・ 今回のアドバイザー派遣を通じて隣村の役場職員、観光協会、地元住民との意見交換ができたので、これらの意見を参考にエコツーリズムの推進普及に取り組んでいきたい。これまでプログラムになかったエコツーリズムの体験も次年度のパンフレットに掲載できる。

## (5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

---

### ●参考となった事項

- ・ 過疎化、高齢化が進む地域でなにか住民がいきいきと取り組む事業ができないだろうかという思いで実施した。
- ・ 先進地での受入体制、活動内容、経済効果等を知ることができたことで私たちの地域が進む方向性、向かう先を示していただいた。
- ・ 昔は紅葉を見る物見遊山的な観光に特化した地域であった。しかし住民が減り、高齢化する中で、住民の関わり、地域の見せ方、説明方法等を学ぶことで、他地域との差別化を行うエコツーリズム推進で地域がもっと輝くものになることが見えたように感じる。これを機に、地域住民が活動しやすいように事務局も、行政もともに協働できる活動の場としてエコツーリズム推進を行っていきたい。

## (6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

---

株式会社南信州観光公社 代表取締役社長 高橋 充 氏

### ●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

- ・ 先ず新八代駅より車で約 1 時間のところに位置する五木村の道の駅「子守唄の里五木」にて川辺川ダム建設への合意形成から建設中止までのことについて、五木村役場の方から説明を受けた。反対から賛成へと向かう流れや、移転完了後に建設中止となった状況等は、環境学習プログラムとして作り込むことや地域施策の在り方の研究テーマ等として、高校の修学旅行、大学の現地研修といった形で有効と思われた。その後、更に一時間程かけて五家庄地区へ向かい、地域全体の様子を掴んだが、大型バスは全く入れないので、民泊を軸としたツーリズムを追求することが最も効果的に感じられた。
- ・ 宿泊先の山女魚荘では、山女魚主体の料理が周りの自然、イメージ全てにマッチしており、山あいの民宿独特の家族的な雰囲気と相まって良い味を出していた。

### ●アドバイス（講義等）の概要

- ・ 意見交換会には行政や民泊受入先の方等 15 名程の人々が参加した。先ず 1 時間半程当方の取組について、民泊やエコツアーを中心に話した。
- ・ 参加した方々からは広域でのコーディネートの方法、地域のまとめ方等について熱心に質問や意見交換を求められた。
- ・ 特に新八代駅から 2 時間の移動があることの処し方に時間が割かれたが、それについては考え方の問題で、長い時間をかけて訪れ、そして別れることによる郷愁感がメリットになる場合もあり、売り方、打ち合せ次第でもあることを話した。基本的には参加した人々はツーリズムに対して前向きに捉えていたので、今後の努力を期待する。

### ●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ 交流事業で大切なのは、実際に現場対応をされる方とそれを陰で支える組織や人であるが、この地域においては、八代よかとこ宣伝隊が、八代市のみならず、近接の五木村とも連携して事にあたれるよううまく立ち回ることが不可欠である。
- ・ 当該団体や地域住民が意欲的である他にも、九州新幹線が有効活用できること、水俣市の環境学習と合わせたコース設定が可能であること等旅行会社担当者に働きかけるための利点があるので、今後のセールス展開に期待したい。